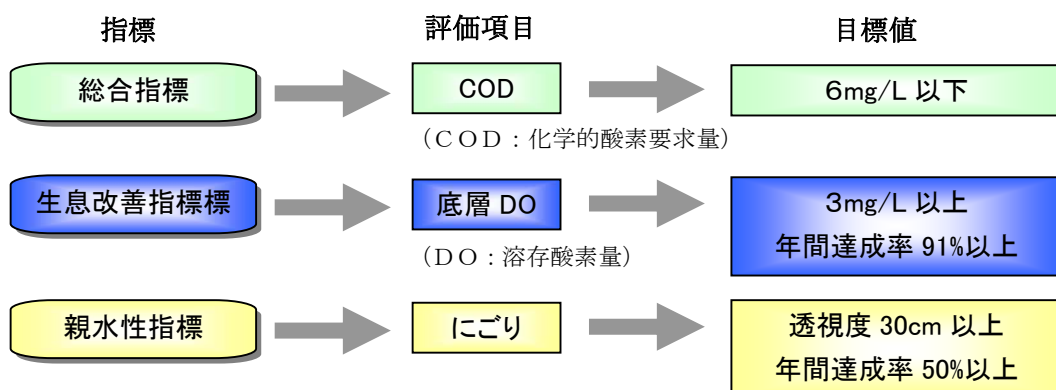


## 油ヶ淵ルネッサンス計画の進捗状況（2022年度）及びにぎり改善対策について

愛知県と油ヶ淵流域関係4市は本日、「油ヶ淵水質浄化促進協議会※」において、油ヶ淵ルネッサンス計画※（本計画）に定める油ヶ淵の水質浄化対策の進捗状況及び油ヶ淵の「にぎり改善対策」について、以下の事項を確認しました。

- (1) 2022年度速報では、CODの値は、長期的な改善傾向がみられるものの、7.3mg/L（COD75%値）となり、目標値6.0mg/L以下には達していない。底層DOが3mg/L以上となる目標を達成した割合は75%となり、目標値である「3mg/L以上の年間達成率91%以上」には達していない。透視度は30cm以上となる目標を達成した割合は46%となり、目標値である「30cm以上の年間達成率50%以上」に達していない。（資料1）
- (2) 2023年度も引き続き、湖内のにぎり対策や下水道整備、下水道への接続促進や水環境に対する流域住民の保全意識の高揚などの水質浄化対策を、県、流域市と市民が一体となって実施する。（資料2）
- (3) 2023年度は、「にぎり対策」として、高浜川水門の年間を通じた開門を実施する他、「にぎり」などの水質状況や改善対策について、引き続き情報発信をしていく。（資料3）
- (4) 2022年度の進捗状況は資料4のとおりとなった。

※ 油ヶ淵水質浄化促進協議会（愛知県、碧南市、安城市、西尾市、高浜市）は、県内唯一の天然湖沼である油ヶ淵の水環境の改善を図るため、「第二期油ヶ淵水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」を2004年度に策定、2011年度には改定し、さらに、2021年度には「油ヶ淵水質浄化促進行動計画2021-2030（油ヶ淵ルネッサンス計画）」を策定し、総合的な対策を進めている。総合指標としてCODを、生物の生息改善指標としてDOを、親水性指標としてにぎりを設定し、それぞれ目標値を定めている。

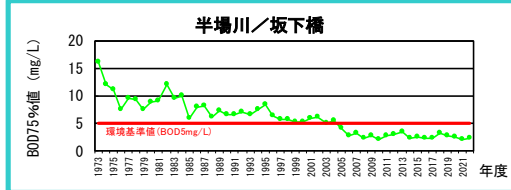
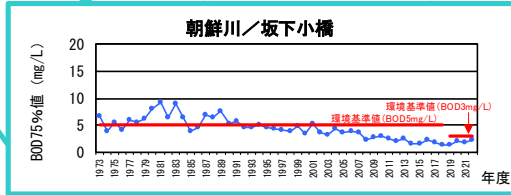
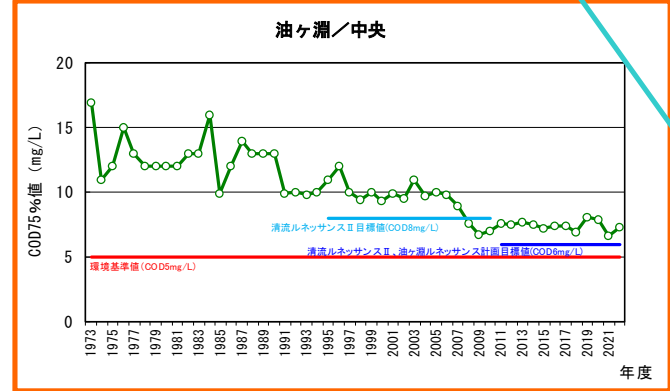
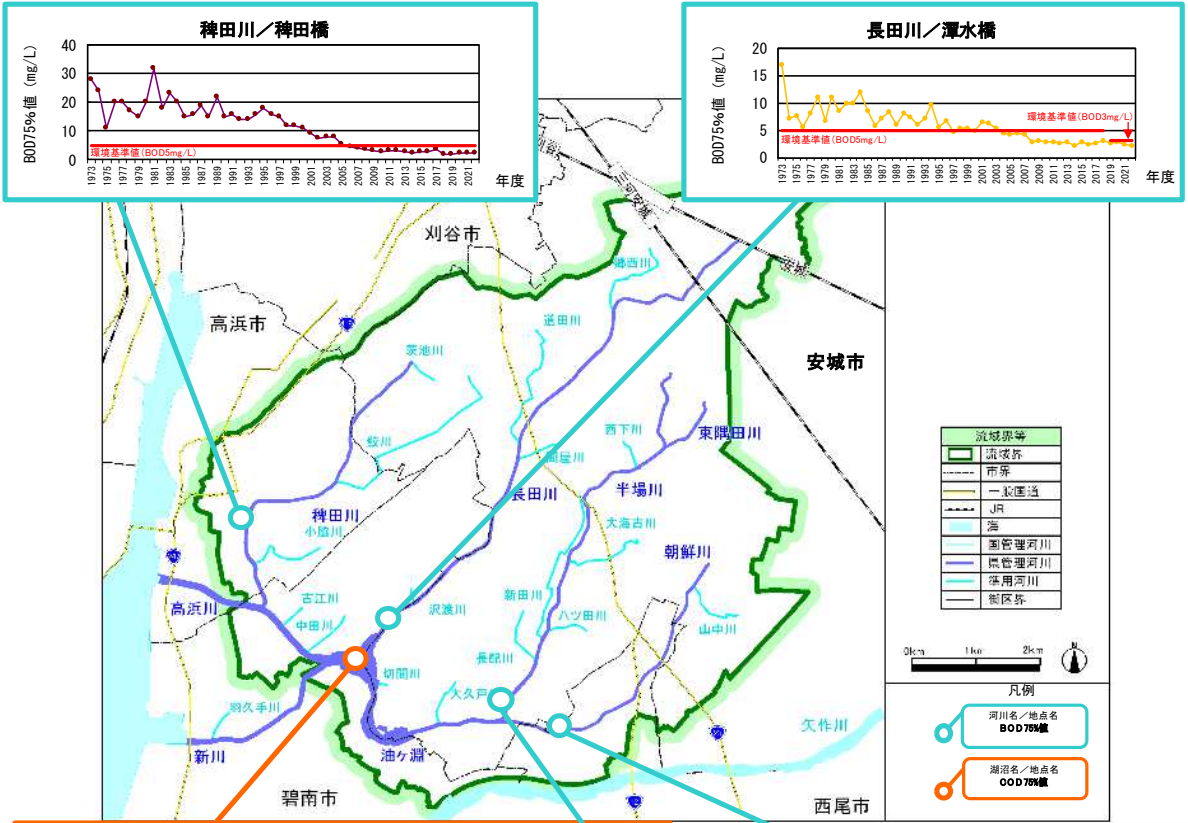


2022 年度の水質について

1. BOD、COD

- 流入河川の BOD は改善傾向にあり、近年、BOD75%値は環境基準を達成している。
- 油ヶ淵の COD は改善傾向にあるが、2022 年度の COD75%値(速報値)は 7.3 mg/L で、目標値、環境基準値ともに達成していない。

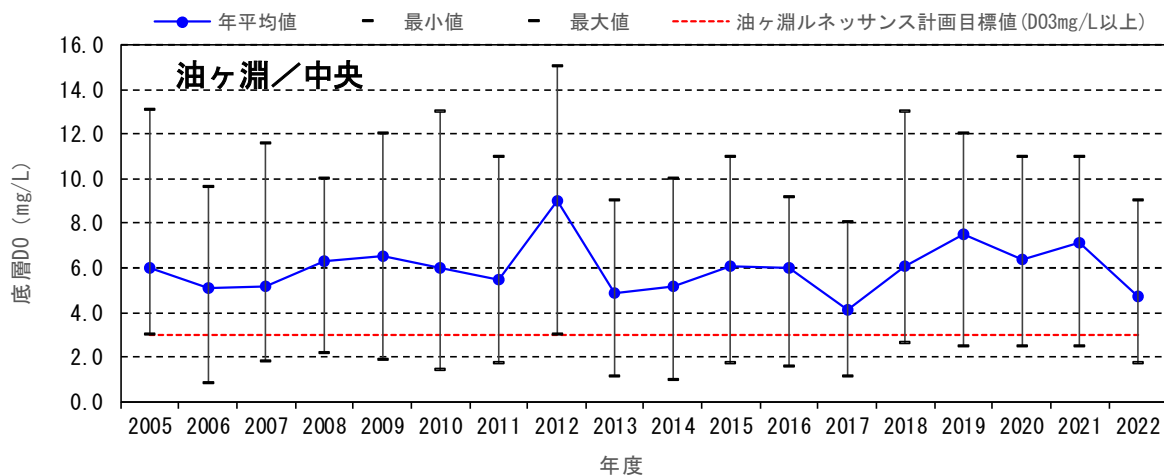
水域名	地点名	環境基準値	油ヶ淵ルネッサンス計画 目標値	2022年度調査結果（速報値）			（参考）2021年度調査結果		
				75%水質値	環境基準 適合状況	目標値の 適合状況	75%水質値	環境基準 適合状況	目標値の 適合状況
油ヶ淵	中央	5mg/L (COD75%値)	6mg/L (COD75%値)	7.3mg/L	×	×	6.6mg/L	×	×
稗田川	稗田橋	5mg/L (BOD75%値)	-	2.5mg/L	○	-	2.2mg/L	○	-
半場川	坂下橋			2.3mg/L	○		2.0mg/L	○	
長田川	潭水橋	3mg/L (BOD75%値)	-	2.3mg/L	○	-	2.5mg/L	○	-
朝鮮川	坂下小橋			2.4mg/L	○	1.8mg/L	○		



## 2. 底層 DO

- 底層 DO は顕著な改善傾向はみられていない。
- 2022 年度の底層 DO 3mg/L 以上の目標達成率は 75% である。

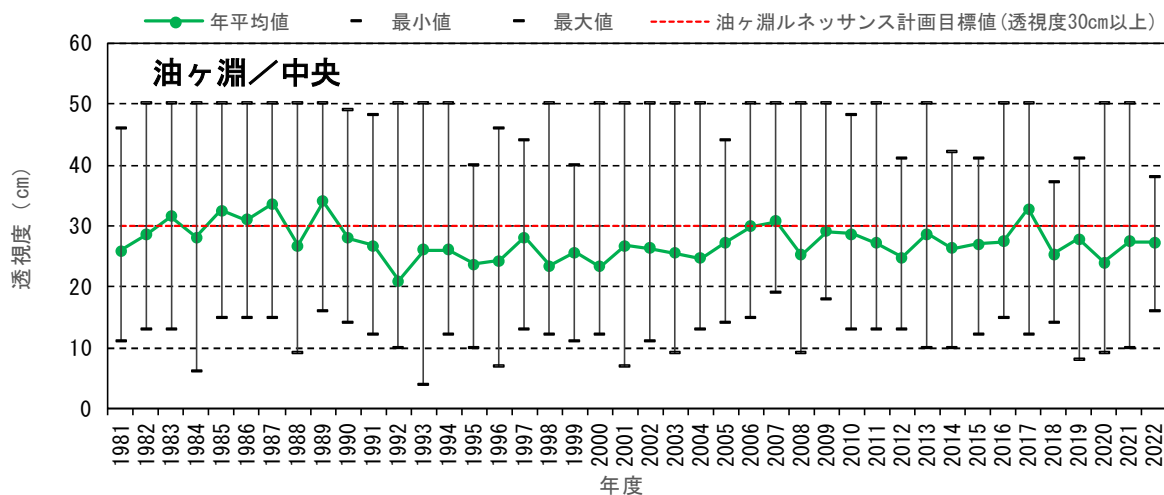
水域名	地点名	環境基準値	油ヶ淵ルネッサンス計画 目標値	2022年度調査結果(速報値)			(参考)2021年度調査結果		
				目 標 達成回数	目 標 達成率	目標値の 適合状況	目 標 達成回数	目 標 達成率	目標値の 適合状況
油ヶ淵	中央	—	底層DO 3mg/L以上 年間達成率91%以上	9/12回	75%	×	11/12回	91%	○



## 3. 透視度

- 透視度は顕著な改善傾向はみられていない。
- 2022 年度の透視度 30cm 以上の目標達成率は 46% である。

水域名	地点名	環境基準値	油ヶ淵ルネッサンス計画 目標値	2022年度調査結果(速報値)			(参考)2021年度調査結果		
				目 標 達成回数	目 標 達成率	目標値の 適合状況	目 標 達成回数	目 標 達成率	目標値の 適合状況
油ヶ淵	中央	—	透視度 30cm以上 年間達成率50%以上	11/24回	46%	×	7/24回	29%	×



## 2022 年度の主な水質浄化対策

## (1) 河川・湖内対策

家庭などから排出された汚濁物質は、ヘドロ生成の原因となり、河床や湖底に堆積したヘドロからは富栄養化の要因である窒素やリンが溶出します。

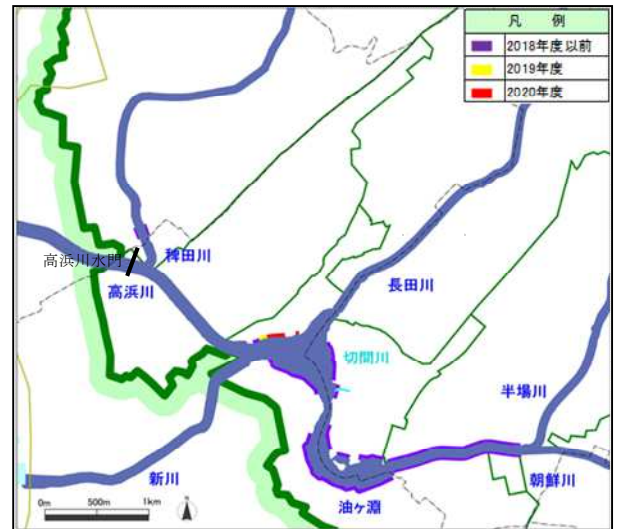
これらの対策として、2020 年度までに湖内の浚渫や覆砂、植生浄化を実施し、計画量を完了しました。2021～2022 年度は湖底調査や植生の管理、高浜川水門開門を実施しました。

2023 年度も引き続き、高浜川水門開門による湖内の「にごり水」の排水を推進していきます。

## 浚渫と覆砂



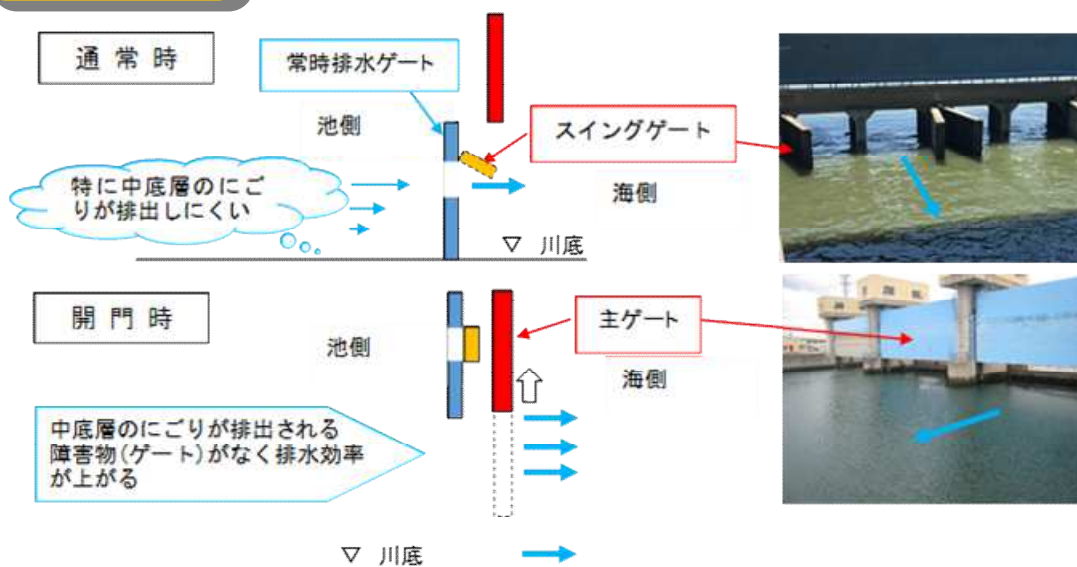
## 植生浄化



## 覆砂イメージ図

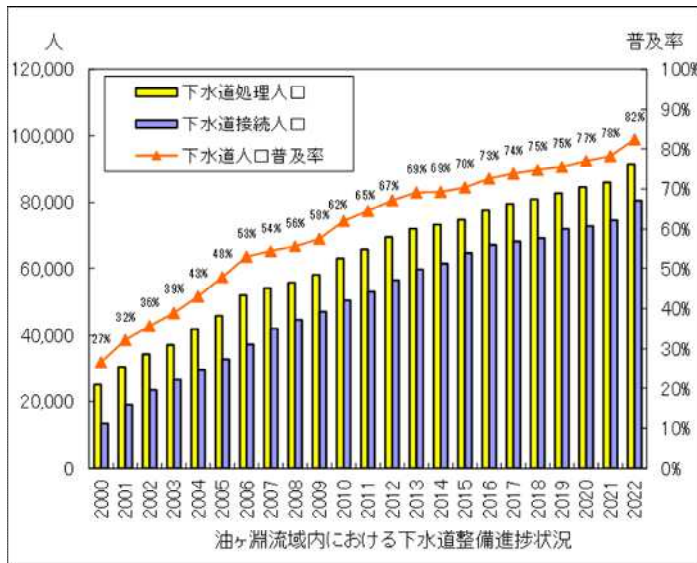


## 高浜川水門開門



## (2) 下水道整備

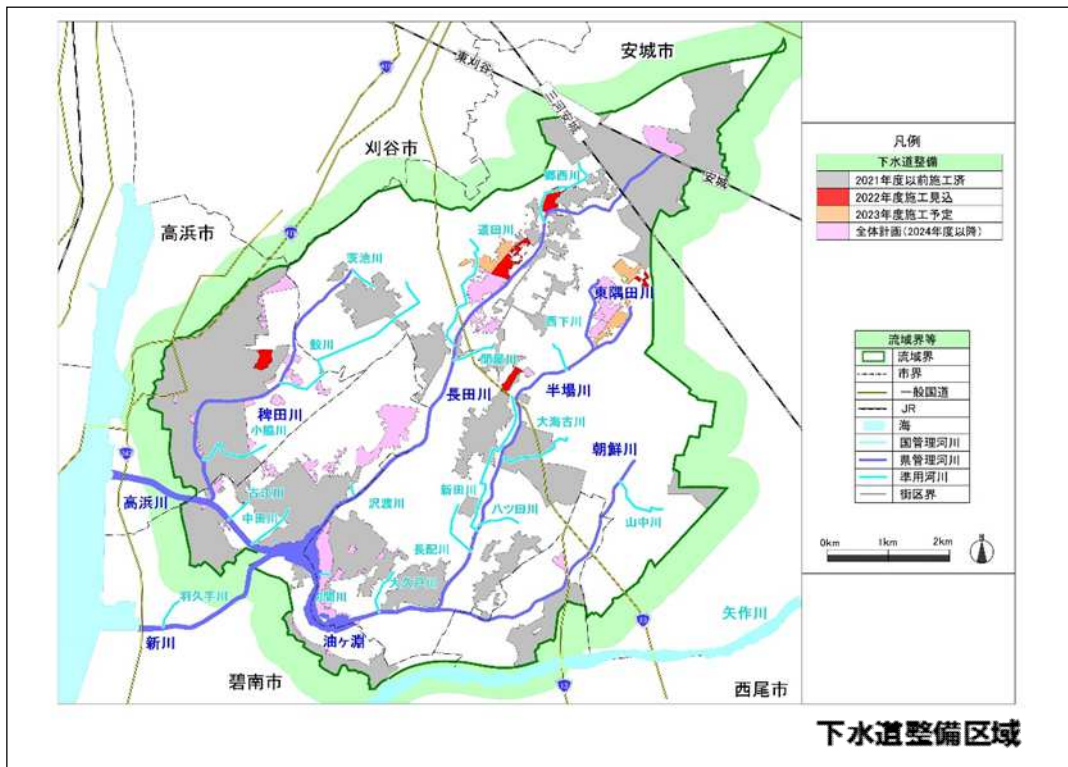
### 下水道整備進捗状況



- 下水道整備による水質改善は、各家庭から下水道管へ接続することで効果が出ます。よって、下水道の普及率とともに、接続率の向上が重要です。
- 本計画の2030年度(目標年度)における下水道整備の目標値は、普及率81%、接続率88%であるのに対し、2022年度(見込み)は**普及率82%、接続率88%**でした。

注 普及率=処理人口/油ヶ淵流域内人口  
 接続率=接続人口/処理人口  
 処理人口=下水道整備済区域内人口

### 下水道整備区域



## にごり改善対策について

清流ルネッサンスⅡ（水環境改善緊急行動計画）で目標値を設定している水質項目のうち、目標を達成することが多いDO（溶存酸素量）に比べ、CODは長期的には改善傾向が見られるが近年は横ばいの状態、「にごり」については目標値を下回る頻度が高く改善傾向も見られません。

このため、2017年度より、学識者から技術的な意見を聞く「油ヶ淵水質浄化対策フォローアップ委員会」を開催し、清流ルネッサンスⅡの実施効果の評価検討と、「にごり」の実態把握や発生原因の究明、対策の方向性の検討を行っています。

2019年度は「にごり」を発生させない稲作方法（V溝直播栽培）の推進、普及啓発、巡回指導を行うとともに、湖内の「にごり」について上流からの「きれいな水」と湖内の「にごり水」との水交換を促進する、高浜川水門開門の実証試験を行いました。

2020年度は「にごり改善対策」をはじめ、次期行動計画等について、学識者による委員会で技術的な助言を受けながら、協議会として対策の検討・実施を行いました。

2021年度は次期行動計画「油ヶ淵水質浄化促進行動計画 2021-2030」を策定するとともに、2022年度にかけて高浜川水門の年間を通じた開門を実施した他、「にごり」などの水質状況について「アクション油ヶ淵」で情報発信を行うなどハード対策、ソフト対策の両面で油ヶ淵の水質浄化に取り組みました。

2023年度も引き続き「油ヶ淵水質浄化促進行動計画 2021-2030」に位置づけた、高浜川水門の年間を通じた開門を実施します。また、「にごり」などの水質状況や改善対策についても、引き続き情報発信をしていきます。

### 1. 油ヶ淵水質浄化対策フォローアップ委員会の開催状況等

#### ○開催状況

第1回：2017年6月12日	}	2017年度
第2回：2017年12月18日		
第3回：2018年9月11日	}	2018年度
第4回：2019年2月21日		
第5回：2019年12月23日	}	2019年度
第6回：2020年10月13日		
第7回：2021年2月15日	}	2020年度
※2021～2022年度は開催なし		

#### ○2020年度の委員会における検討内容

- ・次期対策項目と対策効果
- ・次期計画
- ・にごり改善（高浜川水門開門）の実証試験

### 2. 2023年度のにごり対策

- V溝直播栽培の推進、普及啓発活動、巡回指導
- 高浜川水門の年間を通じた開門

## (1)油ヶ淵ルネッサンスの進捗状況の概要（2022年度実施見込み）

場所	対策の区分			油ヶ淵ルネッサンス計画の対策と目標				
	大項目	中項目	小項目	対策内容	対策実施主体	目標指標	目標 (2030年度)	2022年度実績 (見込み)
流域	点源負荷対策	生活系	流域下水道及び関連公共下水道	・下水道整備の拡大と接続の促進	県下水道課、流域4市下水道関連部局	下水道普及率	81% (汚水処理対象人口に対する割合)	82%
						下水道接続率	88% (下水道処理人口に対する割合)	88%
			農業集落排水	・農業集落排水処理施設	県農地計画課、農地整備課、西尾市	排水処理施設接続率	100% (農集排水対象人口に対する割合)	95%
			浄化槽	・合併処理浄化槽への転換の促進 ・浄化槽の適正な維持管理の促進	県水大気環境課、流域4市環境部局	単独処理浄化槽処理人口	8,590人	11,929人
		汲み取り便槽使用人口				1,364人	1,215人	
		雑排水対策	・生活排水対策重点地域の指定 ・流域4市の支援 ・普及啓発事業の実施	県水大気環境課、流域4市環境部局	生活排水対策重点地域(油ヶ淵周辺地域)の指定	実施	実施	
		産業系	濃度規制	・水濁法に基づき、特定事業場に対し一律排水基準及び上乘せ排水基準を適用して濃度規制を実施	県水大気環境課	特定事業場の排水濃度規制の実施	実施	実施
			総合(その他系)	総量削減計画におけるその他系汚濁負荷対策	・水質総量削減計画に基づきその他の発生源に係る対策を実施し、汚濁負荷の実態に応じた削減努力を促し、汚濁負荷量の削減を実施	県水大気環境課	水質総量削減計画に基づく取り組みの実施	実施
		面源負荷対策	農地系	施肥対策	・施肥基準に基づいた栽培の推進	県農業経営課	栽培暦に基づいた施肥	実施
	代かき対策			・濁水流出防止技術の推進 ・凝集沈殿の実施	県農業経営課	代かきを行わない栽培方法や作物の面積割合	60%	調査中
						凝集沈殿資材の散布	実施 (凝集沈殿資材の散布)	必要に応じて実施
						・代かきによる濁水流出対策の啓発	県農業経営課	啓発および巡回指導の実施
その他	・農業生産工程管理(GAP)手法の導入			県農業経営課	GAP手法の導入	導入	導入	

※ 合併処理浄化槽処理人口は、2010年度(14,011人)をピークにして、その後は下水道の普及・接続等により減少傾向にある。

(2) 油ヶ淵ルネッサンスの進捗状況の概要（2022 年度実施見込み）

場所	対策の区分			油ヶ淵ルネッサンス計画の対策と目標				
	大項目	中項目	小項目	対策内容	対策実施主体	目標指標	目標 (2030 年度)	2022 年度実績 (見込み)
流域	面源負荷対策	市街地系	貯留浸透施設	・下水道接続により不要となった浄化槽の雨水貯留タンクへの転用、雨水貯留タンクの設置、透水性舗装や浸透ます等の浸透施設の設置等に対して助成	流域4市下水道関連部局	浄化槽の雨水貯留タンク転用基数	+50 基 (碧南市)	4 基
						雨水貯留タンク新規設置基数	+30 基 (碧南市)	5 基
水域	水質監視	環境基準の設定		・生活環境項目に関する水域類型指定	県水大気環境課	水域類型の指定	指定継続	指定継続
		公共用水域の水質監視		・水濁法第 15 条に基づく常時監視 ・水生生物指標による水質観察 ・その他水質等調査	県水大気環境課、流域4市環境部局	水質監視の実施	実施	実施
		水位・水質の把握		・河川カメラの設置	県河川課	河川カメラの設置	実施	試行中
	河川水質改善	植生浄化		・植生の管理 (多自然化した河岸の管理)	県河川課	植生の管理	実施	実施
		河床調査		・堆積状況モニタリング	県河川課	河床の測量調査	実施	実施
	河川愛護活動等推進	河川愛護活動推進		・愛護活動の推進	安城市土木課	ビオトープ管理	実施	実施
				・市民団体等による河川愛護活動の実施	油ヶ淵水質浄化促進協議会	アクション油ヶ淵(啓発イベント)の実施	実施	実施
					流域4市市民団体等	市民による水環境モニタリングの実施	実施	実施
					流域4市環境部局	油ヶ淵浄化デー(一斉清掃)の実施	実施	実施
	湖内底質改善	湖底調査		・堆積状況や底質の汚泥状況モニタリング	県河川課	湖底の測量・底質調査	実施 (必要に応じて浚渫等を実施)	実施
湖内水質改善	植生浄化		・植生の管理 (多自然化した湖岸の管理)	県河川課	植生の管理	実施	実施	
	湖内のにごり対策		・高浜川水門を開門し湖内水の排水を推進	県河川課	高浜川水門の開門	実施	実施	